

国道市街部に対する空間評価と住民参加に関する調査
ー積雪寒冷都市の空間デザインに関する研究ー

社団法人北海道開発技術センター 正会員 伊藤 徳彦
寒地開発エンジニアリング（株） 正会員 ○伊藤 孝浩
寒地開発エンジニアリング（株） 正会員 大橋 範久
北海道開発局留萌開発建設部道路第1課 岩渕 仁志
北海道開発局留萌開発建設部道路第1課 宮本 修司

1. はじめに

近年、ボランティア・サポート・プログラム（VSP、国土交通省）、アダプトプログラム（北海道）など、道づくりにおける住民参加制度が整備されてきた。これらは道づくりだけでなく多様な地域課題を解決する新たな手法として注目されている。しかし制度整備は最近であり、住民の制度に対する認知や参加意識は未だ本格的な活動を支持するレベルにない。VSP の趣旨に「我が子のように道路を慈しむ」とある。住民参加による道づくりの持続的な発展にはこの気持ちがとても重要である。道路管理者は住民のこうした気持ちの醸成に留意し工夫する必要がある。

そこで本調査では、国道での住民参加による道づくりの持続的な発展のために、住民が身近な国道（市街地の国道）をどのように感じているか（国道の空間評価）について調査を行い、そこから国道での住民参加制度の課題や対応等について考察するものである。

2. 調査概要

本稿では、留萌管内のうち国道が市街地を通過する1市5町1村（遠別町、初山別村、羽幌町、苫前町、小平町、留萌市、増毛町）を対象に、14の形容詞対によって国道に対するイメージを5段階評価でアンケート調査した（表1）。調査時期は平成16年11月、配布方法は各戸訪問配布および郵便回収方式である。被験者の属性（居住地、性別、年代、職業、接道の別）は図1の通りである。アンケートの配布数は160、回収数は114、回収率は71%であった。

3. 分析結果および考察

3-1. 因子抽出

調査結果から因子分析により国道に対するイメージを構成する因子を抽出した。結果は表2に示す。

第1因子は、誇り、親近感、人間味、好感が影響する【親近感】、第2因子は、風格、個性、歴史性、統一感が影響する【風格感】、第3因子は、動静感、美感、安全が影響する【静穏感】、第4因子は、明感、楽しさが影響する【明楽感】とした。

抽出された4つの因子のうち【親近感】の国道を評価する影響力が最も強く、他の3つの因子はこの1／3

キーワード 住民参加，SD法，因子分析，空間評価，都市空間，幹線道路

連絡先 〒060-0051 札幌市中央区南1条2丁目11番地 南1条タカハタビル （社）北海道開発技術センター TEL011-271-3029

表1 国道に対するイメージの調査結果

Org.No	分類	尺度		評定スコア 平均値
		+	-	
1	統一感	まとまった	ばらばらな	0.220
2	歴史性	歴史を感じる	歴史を感じない	-0.280
3	活気	にぎやかな	さびれた	-0.580
4	動静感	落ち着いた	あわただしい	0.180
5	安全	安全な	危険な	-0.070
6	風格	風格を感じる	風格を感じない	-0.420
7	明感	明るい	暗い	0.060
8	個性	特徴的な	平凡な	-0.560
9	親近感	親しみを感ずる	親しみを感ずらない	-0.080
10	美感	きれいな	きたない	0.190
11	好感	好き	嫌い	0.270
12	人間味	ぬくもりがある	ぬくもりがない	0.010
13	楽しさ	たのしい	つまらない	-0.150
14	誇り	ほこりに思う	ほこりに思わない	-0.040

【N=114】

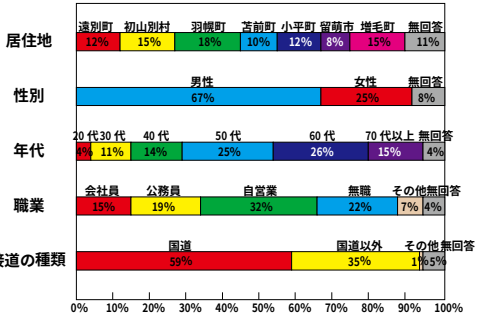


図1 被験者の属性

表2 国道に対するイメージの抽出結果

NO	Org.No	分類	尺度		因子負荷量			
			+	-	I 親近感	II 風格感	III 静穏感	IV 明楽感
1	14	誇り	ほこりに思う	ほこりに思わない	0.762	0.071	-0.013	-0.081
2	9	親近感	親しみを感ずる	親しみを感ずらない	0.686	-0.025	0.011	-0.021
3	12	人間味	ぬくもりがある	ぬくもりがない	0.629	-0.018	0.120	0.157
4	11	好感	好き	嫌い	0.409	0.230	0.258	-0.173
5	6	風格	風格を感じる	風格を感じない	0.402	0.703	-0.135	-0.083
6	8	個性	特徴的な	平凡な	0.034	0.637	-0.121	0.002
7	2	歴史性	歴史を感じる	歴史を感じない	-0.093	0.558	-0.110	0.217
8	1	統一感	まとまった	ばらばらな	-0.123	0.423	0.184	0.356
9	4	動静感	落ち着いた	あわただしい	0.056	-0.216	0.750	-0.094
10	10	美感	きれいな	きたない	0.240	-0.094	0.499	0.182
11	5	安全	安全な	危険な	-0.151	0.403	0.486	0.027
12	7	明感	明るい	暗い	-0.080	0.213	-0.031	0.724
13	13	楽しさ	たのしい	つまらない	0.544	-0.139	-0.110	0.549
14	3	活気	にぎやかな	さびれた	0.207	0.151	0.224	-0.202
固有値					4.692	1.54	1.297	1.058
説明率					36.09	11.843	9.98	8.141
累積説明率					36.09	47.932	57.912	66.053

～1/4程度の影響力となっている。

3-2. 因子スコアからみた分析

因子分析の結果得られた因子スコアから分析する。

(1) 国道沿居住民と国道沿道外居住民の比較

国道沿居住者とその他の居住者で整理した結果を図2に示す。レーダーチャートの大きさと形をみると国道沿線の住民の方が大きく正方形に近い。国道沿いの住民の方が全体的に国道に良いイメージを持っていることがわかる。因子毎では【風格感】で差が顕著に現れた。国道沿線の住民は国道に風格を感じる一方、国道から離れて済んでいる住民は「平凡」「ばらばら」なものと感じているようである。

住民参加には先ず国道に興味関心をもってもらうこと、身近に感じてもらうことが重要である。その意味では国道外居住の住民に持続的な住民参加を促すにはなかなか難しい可能性がうかがえる。

(2) 市町村別の比較

市町村別に整理した結果を図3に示す。市町村別の国道に対するイメージの特徴として、【親近感】は遠別町、小平町、留萌市で負値を示し、身近に感じていない住民の割合が多い。苫前町、増毛町では正值が顕著であり国道に対する親近感が高い。

【風格感】【静穏感】は類似形状のグラフとなっている。遠別町、小平町での負値が目立つ。「平凡である」「騒雑しい」「危険」と感じている住民が多いといえる。【明楽感】は遠別町、留萌市で負値が顕著で、国道に暗いイメージがあるように思える。

初山別村、苫前町、羽幌町、増毛町の市民は比較的 positive のイメージをもっている。この4町村は住民参加を展開するに良い素地をもっているといえる。

他方、遠別町、小平町、留萌市の市民は比較的負のイメージである。特に遠別町市民の国道に対するイメージは厳しく、住民参加を促しづらい可能性をうかがわせる。

増毛町、苫前町等は国道改良済みであり、遠別町等は未改良である。国道の改良未改良と親近感の間に何らかの相関関係があるようで、改良されて小綺麗になった国道空間には住民は親近感がわきやすいことがうかがえる。改良工事は住民参加の道づくりの下地づくりに重要であり、住民参加率の向上は道路整備の新たな整備波及効果項目に加える可能性がうかがえる。

4. おわりに

住民参加の道づくりの推進には、道路そのものが地域住民に親しまれ、身近に感じられることが重要である。老朽化した道路の改良工事はその意味でとても意義あることがうかがえた。また、住民参加の取り組みのスタートは、国道に限らず自宅面前の道路のようなより参加意識の育てやすい道路での取り組みからスタートし、国道での取り組みへと波及させていくことが1つの方法として重要と考えられる。

参考文献

- 1) 菅 民郎：多変量解析の実践（上），現代数学社，pp162-204，1993.

国道別因子スコア平均値

	親近感	風格感	静穏感	明楽感	
国道沿い	0.037	0.047	0.000	-0.011	【N=67】
国道以外	-0.002	-0.085	0.065	-0.005	【N=40】

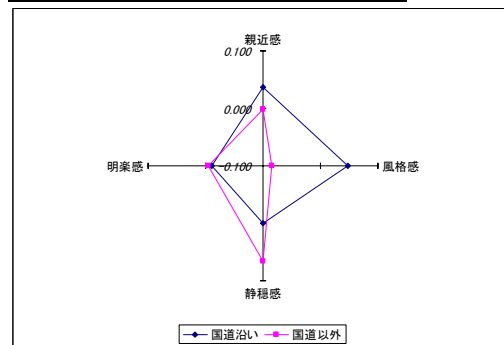


図2 国道別にみた国道のイメージ評価

市町村別因子スコア平均値

	親近感	風格感	静穏感	明楽感	
遠別町	-0.268	-0.472	-0.218	-0.426	【N=13】
初山別村	0.061	-0.101	0.141	0.235	【N=17】
羽幌町	0.145	0.191	0.146	-0.153	【N=19】
苫前町	0.328	0.260	0.103	0.183	【N=10】
小平町	-0.232	-0.245	-0.379	0.084	【N=13】
留萌市	-0.245	0.238	0.127	-0.565	【N=6】
増毛町	0.393	0.115	0.143	0.434	【N=13】

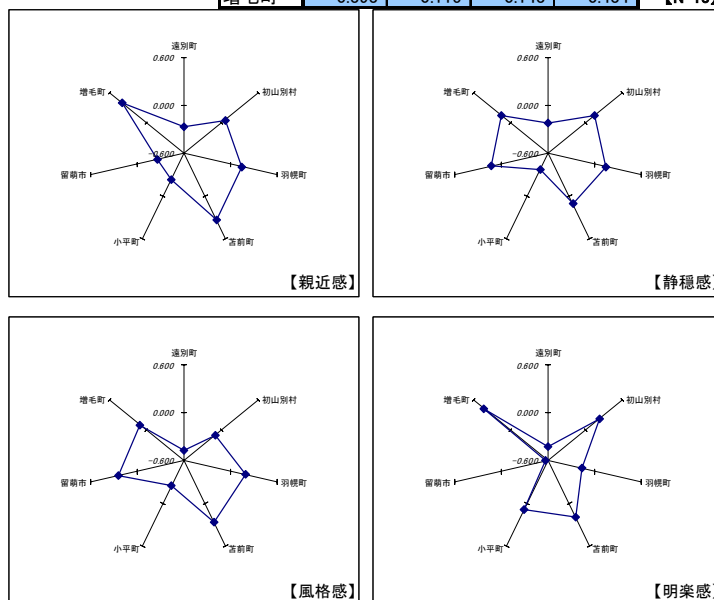


図3 市町村別にみた国道のイメージ評価